

市役所で働いていると様々な社会活動に出会います。興味はあっても、一度関わりだすと責任が生じるし、辞めるに辞められなくなるのは経験上よくあること（組合役員などはまさにそれ…）。だから関わることは慎重になりがちです。そんな私が出会ったのが「いつ来てもいつ辞めても自由」というこの活動。気楽なのに本当に楽しくて、完全に沼にハマって辞められなくなった。そんな日々の記録です。

自主夜間中学のボランティアをやってみた！ ——「教える・教えられる」を超えた現場で見つけた、本当の連帯——

栃木県本部／栃木市職員労働組合 小林 多加志

1. 私がボランティアを始めたきっかけ

近年、さまざまな事情を抱えた人たちの学びの場、特に外国籍の方が日本語を学ぶ場として「夜間中学」が注目を集めています。

私は、昨年まで組合の委員長を務めており、現在の職場（人権・男女共同参画課）は2年目になります。正直に言うと、それほど「人に対して強い興味や関心がある」というタイプではありませんでした。

そんな私が、ひょんなことから自主夜間中学のボランティアに参加することになりました。テレビの特集番組（ケーブルテレビ株式会社「日曜日の学び舎」2025年11月27日放送）で取り上げられていたり、友人から聞いていたりして、その存在自体は知っており、「これからの時代、大切な取り組みだなあ」と興味を持っていたはいましたが、自分が参加したいとは思っていませんでした。

転機は、2026年の2月15日。仕事で国際交流協会に用事があったものの、平日に行けなかったため「今日は自主夜間中学だから日曜日でも開いているかな？」と思い出し、会場へ向かいました。「自主夜間中学もそっと遠巻きに偵察してみようかな」くらいのつもりで足を踏み入れたのを覚えています。

しかし、そこで思いがけない再会がありました。前の職場（農林整備課）でイノシシ・シカ対策のご指導をいただきお世話になっていた鳥獣管理士のAさんが支援者として参加されていたのです。Aさんは農業や青年海外協力隊、若者を集めての哲学カフェの開催など多彩な引き出しを持つユニークな方です。「もっと近くで見学したほうがいいよ！」と声をかけられ、そのままスタッフミーティングに連れていかれました。これが、私の活動のスタートとなりました。

2. 自主夜間中学ってどんなところ？

ここで、言葉の整理をしておきます。

夜間中学に学びに来ている生徒たちをここでは「学習者」と呼びます。そして、彼らの学びをサポートするボランティアスタッフのことを「支援者」と呼びます。

夜間中学には大きくわけて二つの形態があります。

・公立夜間中学：様々な事情で義務教育を修了できなかった方や、不登校などで十分に学校へ通えなかった方、外国籍の方などが、学び直すための公立中学校です。生徒は正式に入学手続きを経て、教員免許を持つ教員のもと、決められたカリキュラムで学びます。2026年4月に栃木県内初めてとなる「県立とちぎ学びの夢学園」が開校しました。

・自主夜間中学：ボランティアが自主的に開設・運営している学びの場です。

私たちが関わる「とちぎ蔵の街自主夜間中学」は、2024年にスタートし開催は60回を超えました。開校からその後の運営まで活動をけん引しているのが、宇都宮大学名誉教授の田巻松雄先生です。専

門は社会学で、長年にわたり国内の貧困問題や外国にルーツのある児童生徒の学習支援に関わってこられました。「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」の代表を務め、現在、県内で3校の自主夜間中学の活動に関わっています。

自主夜間中学は、公的なルールに縛られず、誰もがいつでも自由に参加したり休んだりできるのが魅力です。公立夜間中学よりもさらに多様な人々を対象に、マンツーマンで一人ひとりの学びたいことに対応する、という役割を大切にしています。

実際に、ここには本当に多様な背景を持った学習者のみなさんが来られます。

- ・文学作品などを学びにくる日本人の高齢女性（毎回姿を見かけつつも、どのような方なのかは実はよく知らない…）。
- ・高校進学に向けての勉強や、わからない部分の補習に来る外国人の中高生。
- ・「N1～5」と呼ばれる日本語能力試験（JLPT）の対策や、漢字、ひらがななど、それぞれの段階の日本語学習に取り組む社会人。
- ・小学生や未就学の子どもたち。来日して間もなくで日本語がほとんどできない子もいれば、日本語が流暢な子もいます。

3. ドタバタで熱気あふれる！当日の活動ドキュメント

毎週日曜日、活動は「きららの杜とちぎ蔵の街学習館（栃木市中央公民館）」で行われています。なお、ここは元小学校を改修した施設で、会場も教室そのものです。

・8:50 スタッフ集合、会場設営

まずは同施設内にある栃木市国際交流協会（以下「協会」）の事務室に集合します。そして会場準備、教室として「社会人」「中高生」「小学生」の3部屋をつくります。予約や部屋の開け閉めは協会のプロパー職員のBさんがやっておいてくれます。Bさんは、学習者が求める日本語テキストを手配し代金を集金したり、ホームページ用の活動風景の写真を撮ったり、多様な教材を管理して、私のような経験の浅い支援者に対しても適切なものを紹介してくれたりします。

さらに凄いところは「今日はこういう背景の、こんな方が来校します。」「こんな困りごとを抱えているそうです。」といった、デリケートな情報も把握して、適切に支援者につないでくれます。こうした地道なフォローをしてくださる、なくてはならない存在です。

・9:00 朝の支援者ミーティング

設営終了後、支援者が集まって事務連絡、初めて来た支援者や見学の方が自己紹介をします。

この時点で「今日、学習者が何人来るか」は全く不明です。「来たいときに来る」のがこの当たり前だからです。そして、それは支援者の側も同じです。

「毎週必ず来なければならぬ」というギチギチの義務はありません。田巻先生からして「今日はバスケの試合でお休み！」ということがよくあります。この「お互い、いつ休んでいつ来てもいい」という空気感が、参加する側としては本当に気が楽で、逆に「毎回来ても良いかな」と思えるのが不思議です。

最近では、支援者が15人前後で、学習者は大人クラスだけでも20人以上を超えることが多いのですが、2対1のペアを作ったり、みんなで机を囲んだりして工夫することで対応しています。もちろん運営側としては「マンツーマンの支援」が理想なので、常に支援者は募集しています。

・9:15 受付準備



名札や学習者ごとのこれまでの学習内容が記載されたファイルを用意したり、歌のコーナーで使う楽器を準備したり、歌詞をホワイトボードに書いたり、コーディネート役の支援者Cさんは初めて来た学習者のプロフィールを聞き取ったり、と、この時間帯は慌ただしいです。

・9:30 いよいよスタート！ 朝の全体ミーティング

まだ全員は揃っていません。時間通りに来ない人も多いのですが「日本の学校の当たり前」との文化のギャップもあるのかな…とったりしています。

まずは全員で歌を歌います。うまく歌えない人にも

楽しんでもらえるよう、鈴やマラカスを配り、回収するのが私の役目です（2回目の参加の際に頼まれて以来、私の定位置になりました）。その月ごとの課題曲があり、テレビで見た時は「切手のないおくりもの」（自主夜間中学の理念にすごくフィットした名曲。番組の中でも効果的に使われていました）。初めて行ったときは吉永小百合さんの「勇気あるもの」。そして今この原稿を書いている6月は「カエルの歌」。三班での輪唱で大いに盛り上がります。現在まで選曲は田巻先生が行っています。

その後、「世界の国からこんにちは」のコーナーに移ります。毎回違う国の学習者が前に出てきて、出身地を地図で教えてもらったのち、母語での「こんにちは」「ありがとう」「数の数え方」を教えてください。誰もが教える側にも教えられる側にもなるという、この学校の面白さの一つです。ミーティング終了後、小学生クラス、中高生クラスは、それぞれの教室に移動します。

・9:45～11:40 学習時間

発足当初は1時間づつの二コマだったらしいのですが、いつからか2時間通しで「それぞれ適宜休む」形になったそうです。なので、私は最初に「休みたいときは『きゅうけい』って言ってください」と伝えてから学習に入ります。でも、学習者の方が熱心で、だいたい私の方が「ちょっと休憩しましょう」と言ってしまいます。

始まりの時間もあわただしいです。当日の集まり具合を見て、Cさんが学習者と支援者をマッチングします。挨拶と自己紹介をし「今日何を勉強したいか」を話し合ってからスタートします。

自分のテキストを持っていて学習スタイルが確立している方はスムーズですが、「今日初めて来て、ノートも鉛筆も持っていない。」という方もいます。そんな時は「さあ、何からはじめよう？」と頭をフル回転させ、事務所にある大量の教材から選んで借りて、試行錯誤しながら支援を始めます。まだ慣れないので、周りを見ている余裕もなく、学習者とのコミュニケーションに没頭します。

前述の通り、遅れてくる学習者もいるため、Cさんは、あらためて同じレベルの人とペアやグループになるようにして再編成するなど、自分も支援しながらもう一仕事必要になります。

・11:45～ 振り返りの会

最後にまた、全体で集まります。朝の歌を歌い、今日初めて参加した方に、自己紹介と感想を発表してもらいます。そして「来週の日曜日もここで開催します！」と次回の案内をして終了となります。

・12:00～12:30 片付け・スタッフミーティング

支援者全員で会場を片づけます。公民館にご迷惑をおかけしないように、机、ホワイトボードをきれいに拭き、移動した椅子を戻して数を確認します。公共施設なので当たり前のことですが無償で使わせていただいていることもあってなおさらです。支援者は学習者ごとのファイルに「その日学習した内容」「次に学習する内容」を記録します。

学習者がみんな帰った後、スタッフミーティングを行い、各クラスの報告、ホームページの記事を書く担当を決め、次回への連絡事項を伝達して解散となります。

毎回の報告は協会のホームページにその週のうちに掲載されます。初回からずっと続いている報告は、携わった皆さんの思いにあふれ、支援のためのノウハウもちりばめられており、新参者の私には本当に参考になります。休んだ人にとってもこんなことがあったのかとわかるし、参加した人にとっても他のクラスも含めた全体像が把握できます。ここまで活動の記録を公開している団体ってあまりないようです。

なお、これまで私が携わった内容については「資料 活動記録」を参照してください。



4. 圧倒的な楽しさとこれからの課題

悩みながらも理屈抜きで楽しいからこそ続けていられます。私自身も毎回の気づきをフェイスブックに投稿しているのですが、友人が興味を持って話題にしてくれます。元国語教師の私の父親（88歳）までもが「行ってみようかな」と言い出し、支援に加わってくれました。

しかし、課題だと思っていることもあります。

一つは、タイトなスケジュールで、支援者同士がゆっくり交流・情報交換する時間が取れないこと

です。「自分の今日の支援方法は本当に良かったのだろうか」と自信が持てず、スキルを教えてほしい、相談に乗ってほしいという思いが常にあります。そして、毎回お会いしているのに「この人いったいどのどんな人なんだろう？」と謎の人がまだまだ多いです。

もう一つは、毎回相對している学習者の深い背景に踏み込めていない点です。例えば学習者の「家庭」「仕事」「在留資格」などは聞いてもいい情報なのかどうか。これは私の組合役員としての苦手意識にも通じていて「自分もあまり立ち入られたくないから、周りの仲間の深い部分にも立ち入れない」というジレンマがあります。「おせっかい」が大切なのだとはわかっているのですが…

でも、それは付き合いが重なるにつれて自然に聞けるようになるものであって、日本人同士の関係でも国籍を超えた関係であっても同じだと思うので、慌てないで距離を測っていきたいと思います。

5. おわりに

このレポートを書くにあたり、フェイスブックに書き溜めた記事をAIに読ませて分析してもらったら、鋭い答えが返ってきました。

「外国人を支援しているというより、関わりを通じて自分自身を学び直している人に見える」

「『本当にこの教え方でよかったのか』と延々と自問自答している」

「『支援する強者』『される弱者』という固定化された構図そのものに違和感を持ち始めている」

特に3点目の指摘には、ハッとさせられました。私は最近「慈善（Charity）ではなく連帯（Solidarity）」という言葉を知りました。ケン・ローチ監督の映画『オールド・オーク』に出てきます。この映画では、排外意識が根強いイギリスの元炭鉱の街を舞台に、主人公がシリア難民を支援する食堂を開設するにあたり、炭鉱労働者の助け合いのスローガンであるこの言葉を掲げます。この映画は労働組合に関わる皆さんにはぜひ見ていただきたい名作です。

自主夜間中学も、上から目線で教えてあげる場所ではありません。支援者の側も、支援を通じて相手自身のこと、文化のこと、コミュニケーションの在り方を学ぶ、日本語や日本文化を教えながらもその面白さ奥深さを自ら再認識する。そんな「相互に学び合う関係」です。

そして、お互いに、来られるときに来て、休みたいときは休む。時にそれぞれの人生に一步踏み込んで背景を理解し合う。そんなフラットな関係だからこそ、無理のない心地よい「連帯の場」が生まれるのだと思います。

少しでも気になった方は、ぜひホームページを覗いてみてください。

この素晴らしい仕組みを作ってくださった田巻先生、栃木市国際交流協会、そして毎回の学習者・支援者の皆さまには、心から感謝を申し上げます。自主夜間中学と出会えたことは、私の人生の大きな転機となりました。これからも楽しく、自然体で続けてまいります。

とちぎ蔵の街自主夜間中学 概要

- 発足 2024年10月6日
- 開催日時 毎週日曜日 9:30 ~ 12:00
- 活動会場 きららの杜とちぎ蔵の街学習館（栃木県栃木市入舟町6-8）
- 現在の規模 学習者20名前後（社会人、中高生、小学生など）支援者：約12名～20数名
- 費用 無料
- 学習内容 小中学校の基礎学習、教科書補習、日本語学習など
- 主催 栃木市国際交流協会 <https://www.tic-tochigi.jp/night-school/>
- お問い合わせ 田巻松雄（代表）電話：090-7731-9345 tamakimmm@yahoo.co.jp

資料 活動記録（フェイスブックに投稿した記事を抜粋）

2月22日（初参加から2回目）

小学生クラスを手伝う。7名の未就学児・小学生が、絵を描いていたと思えば縄跳びやシール交換を始めたりと、教室内はカオス状態。安全に見守るだけで精一杯。

一見自由にさせているようで、ベテラン支援者（保育士免許を持つ経験者など）がその日の遊びを上手く提起し、叱り、フォローしている。やはりプロはすごいなあ。

3月1日（3回目）

大人クラスで、初めてのマンツーマンの支援を経験する。

相手はネパール人のDさん。英語もでき、ひらがな・カタカナの読み書きはできるが漢字は読めない。小1の子どもが学校でもらうプリントを読むようになりたいという。N5レベルの漢字リストをもとに、音読やノートへの書き取り練習を進める。

漢字の「気」の意味を聞かれて説明に困る。「空気の“air”」「気分の“mood”」「元気の“spirit”」などかなあ…と、翻訳アプリの力を借りてなんとか説明した。

3月22日（5回目）

前回とは別のネパール人学習者に漢字を教える。テキストの熟語を音読し、ノートに書き取り、再び読んでもらい、問題がなければ次に移る、を繰り返す。学習者は7月のJLPT受験が目標で、のんびりしてられない。

「ありがとうございます」と笑顔で終わるので満足してもらえているようだが、私の方は毎回「私の教え方でよいのか」「本当に伝わっているのか」と募る不安がある。また、支援をしながら、気づくと、自分の話し方までカタコトになったり、ルー大柴的な不自然な英語混じりになったり、日本人特有の語尾のはっきりしない感じになったりしている。入門書に悪い例として出てくる典型パターンなので、気をつけないと。

3月29日（6回目）

朝の会の前、元日本語教師のEさんが学習者に「『あなた』（という言葉）は使っちゃダメ」と注意している場面に遭遇する。何故そんな基本中の基本の言葉を使っちゃダメなのか気になって尋ねてみた。

「いきなり見ず知らずの人に『あなたは～』と言われたら『失礼だ！』と感じるでしょ。『あなた』は夫婦や友達など親しい間柄で使う言葉、そういう言葉の使われ方を教えるのも日本語教師の仕事。初対面なら『失礼ですがお名前は？』と聞いてから『〇〇さん』と名前呼びかけよう指導している。」とのこと。

帰宅後に日本語ボランティアの入門書を開くと、最初のページにこの「あなた」の使い方の記載があり、日本語教師の間では基本中の基本のようだ。

納得する一方で、トラブル回避のためとはいえ、外国人の側にばかり負担と気遣いを強いていて、日本人の側はそのマジョリティ特権に気づいているのだろうか、と仕事柄考えてしまう。

4月5日（7回目）

前回の経緯もあり、私も学習者を名前で呼んでみようと思うが、主語を省略するのが日本語なので、普通に会話しているとなかなか名前を呼ぶ機会がない。

最後にテキストを離れ「Dさん」、職場では他にどんな国の人がいるんですか？」と質問してみた。色々な国の人がおり、スタッフ間の共通語は日本語だそう。その後、逆に「“こばやしさん”は何の仕事ですか？」と聞かれ「やはり名前を呼ばれたほうがうれしいなあ」と実感。脳内にはゴダイゴの『ビューティフル・ネーム』が流れた。

私の仕事について「市役所につとめてます。City Hallです。先生ではないし、先生の経験もな



い。だから、ちゃんと教えられていないかもしれないです。」と回答する。Dさん笑顔で「わかりやすいですよ。」と応えてくれてまたうれしい。

テキストに、人が3人が並ぶ写真を見せて『○さんは□さんの__にいます。』という問題があった。Dさんは「右」と答えたが、正解は「左」。

「写真を見る場合は、見ている自分側からの右左を答えるのが普通。こういう場合は『向かって左』と言えいいでしょう」と解説した。

その後「“右”はどう説明するのか」と気になりスマホの辞書を検索。『東を向いた時、南の方。また、この辞書を開いて読む時、偶数ページのある側をいう。』との定義だった。東西南北の漢字をおさらいし、「偶数ページと言われてもスマホじゃわからないね」とお互い笑う。

4月12日（8回目）、4月26日（9回目）

他の日本語教室でも勉強してきた熱心なネパール人男性Fさん。ダイソーの小1～3漢字ドリルで独学してきたが、小3レベルで行き詰まったという。

単独の漢字は理解できるが熟語や送り仮名が付いた場合の読み方が分からない様子。日常で使わない漢字はイメージが湧かず、今の学習方法で良いのか自信がないため、具体的な進め方を知りたいとの相談。先日「『あなた』は使わない」と教えてくれたEさんも加わってもらう。

「あてが外れる」を読めず「そと？」と言うFさんに、Eさんはこう説明。

「日本人も漢字のルールだけで読んでいるのではなく、元々『あてがはずれる』という言葉を知っているから読める。だから単体で『はず』と読めなくても気にしなくていい。大事なのは漢字ではなく『言葉の勉強』。それも生活で使う言葉が良い。『今日はいい天気になると思ったのに、あてが外れちゃった。雨が降ってきた』というように使われ方を覚えていく。」

この助言を参考に、N4テキストの読み取りドリルを使用。文章の中での漢字を読めるよう練習し、わからない漢字、文章はノートに書きとってもらう方法で進めた。Fさんにもこやかに「このやり方がよさそうだ」と納得していた。

5月24日（11回目）

女性4人で連れ立って来たネパール人女性の1人を担当。日常会話もおぼつかなく、ひらがなの学習を希望。他の方はすでに漢字の段階であった。

まず五十音表を音読し、テキストの順に「し」や「つ」など1筆の簡単な文字から練習する。50音順のほうが良いのでは？と思ったが、『ぬ』と『め』、『わ』と『れ』など、似た字を順に学べる構成で、一理あるなと感心した。

集中して取り組んでくれたおかげで、時間内に全ひらがなを終了。ただパッと読めるのはまだ半分ほど「家でも何回も読んで書いてみてほしい」と最後に声をかけた。

田巻先生が朝のミーティングで「教えるというより、お話しをする、応援をするという気持ちで接してほしい」とおっしゃっていた。本当にその通りで、プロの教師では無いから教えるには限界がある。信頼関係を築き、気軽に足を運んでもらえる環境をつくることで、日本人との日本語でのコミュニケーションに自信をもってもらえる場になってほしい。

5月31日（12回目）

今回は別のネパール人女性Gさんを担当。日常会話もカタコトで、英語もローマ字も読めない。前回ひらがなを一部やったようだが、まずは日常会話を練習したいとのこと。「わからない」「わかります」「これは何？」など「サバイバル日本語」の会話練習をテキストに沿って進めた。「家でも動画やアプリで勉強してね」と言いたかったが、スマホも持っていないことが判明。また来てくれるといいのだが。

「ネパール人は英語ができる」というのは私の思い込みだった。そういえばこれまでの学習者の英語力も人によってかなり差があったなあ…いずれにしても、学習者それぞれにあわせて対応していかないと。

6月7日（13回目）

今回はGさんを担当。「日本人の同僚に仕事のことを聞けるようになりたい。」というのが学習動機だと話していた。前回に続き、買い物や体調不良時などのサバイバル日本語の会話を練習した。

彼女のため「ネパールの文字（母音が8種あるため、できるだけ日本語に近い音の文字）」と、ひらがな・カタカナ、ローマ字が並んだ特製の五十音表」を作成しておいた。

AIが作ったもので、私もネパール語はわからないので間違っているかもしれない。Dさんに確認してもらおうと思ったが今日は来ていなかった。でもGさんに読んでもらったらスムーズに五十音が読めたのでそのままお渡しする。次回はひらがなを学びたいとのこと。

帰宅後、五十音表の歴史が気になり、父に質問したら「平安時代には原型があった。奈良時代以前の日本語には母音がもっとあった（7～8音説）」と教えてくれて、『五十音図の話』（馬淵和夫著、大修館書店）を貸してくれた。

ネパール語の文字やハングルは、文字自体も母音と子音の組み合わせのため法則性があるって分かりやすい。日本語のひらがな・カタカナは漢字を崩してできたものなので法則性が無くわかりづらいだろうなあ、と思う。

6月14日（14回目）

ペルー人の親子を担当。親御さんは何回か来日しているが、日常会話も不自由で文字は自分の名前だけ書ける。お子さんは2ヶ月前に来日したばかりで中学生の年齢。まだ学校に通っていない。二人でまず日常会話を練習したいとのこと。テキストにそってすすめる。「お仕事はなんですか？」「公務員です。市役所に勤めています」と会話の練習をしていたら、私に伝えたいことがあるようでスマホを指さす。翻訳アプリで話してもらおうと「あなたのことを市役所で見たことがあります」とのこと。笑って「えー、いつだろう？」と答えて、向こうも笑っていた。そこでそのやりとりは終わってしまったが「どんな用事だったの？」など、もう少し会話を膨らませればよかったな。

今回、初めて「中高生クラス」の教室に入った。JLPT対策のグループの机には聴解試験対策で使うラジカセが設置されていた。他にも4人の中高生が自習をベースに先生へ質問しながら学んでいた。日本語が十分にわからないまま来日した子どもは、学校の勉強についていけず、特に専門用語を使う理科や数学などは支援が必要だという。まだ一度覗いただけだが、彼らへの学習支援は重要な課題だ。

